



自らが楽しく充実した学級や学校の生活づくり

青葉を渡る風にのせ、子どもたちの元気な声が学校に響き渡っています。

1学期の半分が過ぎ、子どもたちは新たな学年での生活を軌道に乗せ、目標に向かって様々な取り組みを進めています。しかし、この時期に気を付けねばならないことは、子どもたちに疲れが出てくるということです。学校では引き続き、健康・安全に十分に配慮し学習を進めてまいりますので、各ご家庭でもお子様の健康についてご留意ください。

さて、新生活は誰もが楽しみにしていて少し不安もありますが、目標をもって生活することで、生き生きと希望をもって楽しく豊かな生活をつくっていくことができます。そのために、子どもたちは友達や先生と一緒に新たな学級や学校の生活づくり（学級目標や係・当番活動を考えて決める等）に取り組んできました。

「言われたことや、指示されたことを本気で取り組むことは難しい。」「願わないことは叶わない。」「内省のないところに成長はない。」ということ踏まえ、自分たちで目標をしっかりと定め、反省と改善を繰り返しながら、よりよく生活することを追求することで集団も個人も成長していきます。4月から今日まで、その第一歩を各学級とも踏み出すことができたと思います。

これから1年、子どもたちがよりよい「理想の学級・学校生活や学習」を求め、各自が自分の目標に向かって生活するとともに、集団として協力し、前向きに取り組んでいくことを期待しています。私たちは、子どもたち一人一人に自主性や社会性、集団の一員としての責任感などを様々な教育活動を通して培っていくとともに望ましい人間関係を築こうとする態度が養われるよう指導・支援してまいります。

望ましい習慣の形成

元メジャー・リーガーの松井秀喜さんは、右記の言葉を座右の銘とし、自分の帽子の裏に書き込んでいたそうです。

習慣は人格をつくり、時に人の運命を左右します。習慣は、思考と行動の繰り返しの結果として、私たちに資質を培います。子どもは、一人一人異なる資質をもち、その成長には個人差があります。しかし、子どもの発達に、共通に見られる特徴があるのもまた事実です。そうした特徴を踏まえ、学校と家庭が連携しながら、子どもの望ましい習慣の確立を支援していきたいと思ひます。

心が変われば、**行動**が変わる。
行動が変われば、**習慣**が変わる。
習慣が変われば、**人格**が変わる。
人格が変われば、**運命**が変わる。
(アメリカの心理学者・哲学者
ウィリアム・ジェームズ)

小中9年間の中で身に付けておきたい習慣

- 規律ある生活を送る・・・約束やきまりを守る、自分の生活を見直し節度を守る等
- 健康な心と体をつくる・・・早寝・早起き・朝ご飯、うがい手洗い、運動する等
- 人とすすんで関わる・・・仲良く助け合う、感謝・思いやり・親切等
- 主体的に学ぶ・・・話を集中して聞く、話題に沿って話し合う・家庭学習・読書等
- 喜びをもって働く・・・働くことの大切さを知り進んで働く、奉仕する喜び等

<参考資料>所報たまじむ